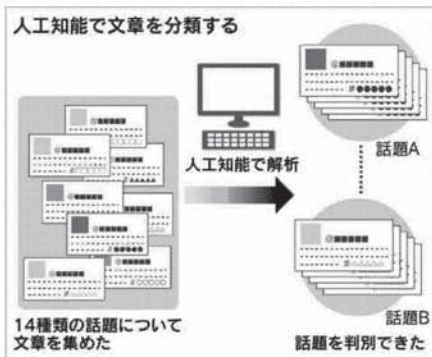


SNS投稿内容で分類

AI、キーワードや言葉づかいから

筆者も識別可能 法大、深層学習を応用



法政大学の弥富(いやとみ)准教授は膨大な数の文章を似通った内容ごとに分類する人工知能(AI)を開発した。深層学習(ディープラーニング)技術を用い、キーワードや言葉づかいを調べる。短文投稿サイト「ツイッター」の文章から投稿者が関心を持つ話題を分析したり、小説から著者を推定したりできる。地震などの災害時にネット情報をもとに被災状況を知る技術の開発につながる。

最新のAI技術であるに勝った対局で注目を集める深層学習は、大量に集めたデータの特徴を自ら識別できる。米グーグルのAIでツイッターに投稿した膨大な数の開封された約7万通りの文章を解析した。それぞれの文章はあらかじめ14種類の話題が決

ホ)が普及し、いつどこでも投稿できる可能性がある。ネット上の多数の記事からでもソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)で情報を発信できるようになった。たい記事を見つけやすくなる。災害時に多くの人が投稿する情報を内容ごとに整理し、避難や救助を求めたい記事を見つけてやすくなる。ネットの掲示板で、特定の見解が集中する「炎上」と呼ぶ状態を検知する。小説の著者や、記事の新聞社を8割を超える精度で見分けたという。同じ言葉でも筆者が違っていると使い方にばらつきがあるためとみられる。今後、分類に使った特徴を解析できる技術を開発する計画だ。(遠藤智之)

章中の文字の形や並びをまっとう、約7割の精度で見分けたという。研究チームは、開発したAIでツイッターに投稿した膨大な数の開封された約7万通りの文章を解析した。それぞれの文章はあらかじめ14種類の話題が決